



波 濤

第 2 3 号

学 会 会 明
大 同 密 員
送 セ ン タ ー
放 奈 川 学 習 セ ン タ ー
行 神 奈 川 学 習 セ ン タ ー
編 集 総 務 委 員
任 者 伊 東 廣
責 任 日 平 成 1 4 年 3 月 1 日
行 員 数 7 6 1 名 (平 成 1 4 年 3 月 1 日 現 在)

活力を社会に還元

神奈川学習センター同窓会
会長 伊東 廣明

新世紀は新しい希望にもえた出発と思いましたが、全く予想もしなかった米国での同時多発テロを始め暗いニュースばかりで幕を開けました。さて、今年はどうでしょう？ 相変わらず取り巻く環境は厳しく明るい兆しは見えませんが、あらゆる面で構造改革・変革を求められています。なかなか難しい面が在るようです。

私達の同窓会活動はどうでしょう？ 昨年の活動は、波濤22号で披露しましたように学習センター、在校生サークルとの連携も変化して来ました。今年には更に親密になり発展することを願っています。そして、今年から大学院も開講し同窓会員で更に研究を続ける人もいます。学びの環境はドンドン変化することと思います。

さて、社会の厳しい環境の中で周囲を見回した時、還暦を過ぎた同年代の人が活力があつて一番元気が有るように思われます。この活力を生かして、更に自己・相互研鑽を重ね、それを社会に還元する方法を検討する価値があると思います。

今回の通常総会に会則の一部改訂を提案します。その一つは「社会への貢献」を明記することです。現在は、「社会への貢献」としてF・P活動を行っています。その一つに学社連携・融合があります。既に活躍している人もいますが、放送大学で学んだこと、社会で経験したことを子供達に還元することです。私は日頃から、幼少年には《夢と希望》を、青年には《活力》を、高齢者には《安らぎ》を与えたいと思っています。

最近登下校時に、中学生や高校生が制服姿でタバコを数人で座り込んで吸っている姿を見かけます。

このような時、私は繰り返し注意をします。その時「素直に謝って火を消す子供」「太々しく睨み返す者」中には「おじさんは先生？ 援助交際をしているの？ 間違えらるよ」と云う女子中学生もいます。全く教育、躾はどうなっているのか？ 昔はタバコを吸って警察に補導された高校生もいました。現在は何故、当たり前のことを当たり前として注意できないのか？ 或いは注意しないのか？ 大人、教師にも責任があるのではないのかと思われまます。

二十一世紀の日本を担う若者たちが元気に健全に成長するように支援をしたい。二十一世紀は日本人が本来もっている心を大事にする『心の時代』でもあり、人の質を上げる『心のこもった教育』を必要とする時代であると思います。

この様な時代こそ色々経験が豊富な人が力になると思います。その一端を同窓会が担うことが出来るのではないのでしょうか。それが社会に還元する学社連携・融合につながる一つの方法であると思います。同窓会が元気で明るい発信基地になれるように頑張りましょう。

更に同窓会が活性化するように皆様のご提案・協力をお願い致します。

第十三回通常総会

及び講演会

開催のお知らせ

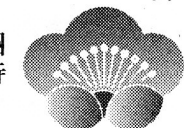
神奈川学習センター同窓会第十三回通常総会及び講演会を左記の通り開催します。なおお知らせ致します。

【総会】

日時 平成十四年五月十二日(日)
午後一時～
場所 神奈川学習センター講義室

《議案》

- 一、平成十三年度活動報告
- 二、平成十三年度収支・決算報告
- 三、平成十三年度フォスター・プラン活動報告
- 四、平成十三年度フォスター・プラン収支・決算報告
- 五、平成十四年度活動計画
- 六、平成十四年度収支・予算
- 七、平成十四年度フォスター・プラン活動計画
- 八、平成十四年度フォスター・プラン収支・予算
- 九、平成十四年度役員選挙
- 十、その他



【講演会】

日時 総会終了後二時三〇分～四時
講師 神奈川学習センター長

神代和欣 教授

演題 『産業空洞化と闘う中小企業』

【懇親会】

- 講演会終了後懇親会を行います。
- 一、会費 四〇〇〇円程度、
 - 二、場所 お馴染みの店を
当日ご案内致します。

共に学んだ学友と久し振りに楽しく語り合い、学縁の輪を広げませんか！ 皆様の参加をお待ちしています。

尚、総会、講演会、懇親会の出欠は同封しましたハガキでお知らせ下さい。

《お願い・募集》

- 一、同窓会役員としてご協力頂ける方を
お知らせ下さい。(自薦・他薦可)
- 二、講演会、見学会等の楽しい行事の企画
に関するもの。

連合会便り

《大学との懇談会》

平成十三年十一月三〇日に大学本部で実施された。今回は、大阪、熊本の同窓会長の新たな参加があった。☆丹保学長より現況と今後の展望について説明があった。

一、全国化推進結果、学生数九万名
二、在学者の男女比 男性 37%
女性 63% 平均年齢 42歳
三、大学院開講に鋭意努力中である。

☆各同窓会からの質問、要望事項に
対して大学から説明があった。

一、単位認定互換大学は、222校
ある。
二、科目新設は、時代の要請に合わせる。

三、大学院修士入学応募者 4000
名（定員500名）

新年度から、出願だけで入れる修士
科目生の入学が始まる。修士全科
生希望者は事前に単位を取得し
ておく方法もある。

四、卒業生の就職については、大学
院修士卒業生も出るので、学生の
進路指導も含めて今後の検討課題
である。

《卒業祝い・謝恩パーティ》

卒業式は三月一七日（日）浦安市
舞浜NKホールで挙行されます。
引き続き隣接する東京ベイヒルトン
で連合会主催の祝い・謝恩パーティ
が開催されます。



「社会人のための大学フェア
in かながわ」に参加して

伊東 廣明

この催しは、平成十三年九月二九
日に神奈川県民センターで行われ、
神奈川県下の大学・短大が、社会人
を対象にキャンパスライフを呼び掛
けたものです。

主催者は神奈川県教育庁の生涯学
習情報センターで、各新聞社、報道
機関も協力したものでした。会場に
は横浜国立大学、慶応大学、放送大
学など約五十校が参加して、各大学
の資料コーナーと個別相談コーナー
が有り社会人に学びの情報を提供し
ていました。私は放送大学神奈川学
習センターの体験発表者という立場
で参加しました。

体験発表者は私を含めて三名で、
持ち時間は一名一〇分で発表、その
後は質疑応答形式でした。

私は、

- 一、放送大学へ入学した動機
 - 二、会社勤めとどう両立させたか
 - 三、放送大学とはどのような大学か
 - 四、放送大学の授業内容
 - 五、放送大学で得たもの
- 等について休憩をはさんで二回発
表しました。

生涯学習に対する関心が高く、受
験勉強、授業料、資格等、興味をも
って質問をした人もいました。

《学びたい！それが入学資格》とい
う放送大学は恵まれた環境にあるこ
と、更に大学院の開設等も説明をし
て、それぞれ理解してもらえたと思
います。



《秋の江の島散策》に参加して

荒川 知子

江の島がこんなにも興味深い島だっ
とは！子供達が幼い頃、戸塚の日限山
に住んでいたことがあり、度々磯遊びに
訪れましたし、私自身の子供時代も東京
からの海水浴という江の島で、小学校
四年生では遠足で鎌倉と江の島を巡りま
した。そんなわけで、江の島はよく知っ
ている積りでしたから、今回は神奈川の
皆様とバイテルさんと一緒に歩くこと
を楽しみに参加させて頂いたのです。と
ころが、ボランティアガイドをされてい
る尾関様（同窓会員）のご案内と詳しい
説明を伺って、全く初めての島を歩いて
いるような新鮮な感動を覚えました。
素敵な企画に誘って頂いて、皆様と和
気藹々に過ごした一日を感謝します。
会長さん、実行委員の方々、皆様、有り
難うございました。



《波濤の子供も見てきました》

佐々木 恭夫

放大同窓会企画の江の島散策に参加し
て、たくさんの新しい発見をさせていた
だきました。江の島まで車で三〇分程度
のところに住んで三〇数年になるという
のに、江の島弁天橋は数え切れない程渡
りながらも、なんとなく忙しく？通り過
ぎていたらしく、今回企画の名所のいく
つかは、初めてという、昔何方かが言っ
た「はずかしながら」を地でいってし
まった感じでした。例えば、天照大御神
の神子三姉妹を個別に祀った江島神社
（古事記の神話伝説によれば、この三姉
妹は須佐男命の剣から生まれた子と言わ
れておりますが）、展望台からの眺望な
ど、なぜか縁がなくて通り過ぎてしま
した。更には、あの岩屋洞窟もなぜか、見
たいなと思ったときに修理中で、閉鎖し
ていたとか、江の島は、何か目に見えな
いもので小生を遠ざけていたとしか思え
ませんでした。

今回の企画は、それを取払ってくれた
と思うことにしました。散策の終盤で
は、稚児ヶ淵を下って岩屋に向かうので
すが、途中の岩礁に当たって砕ける小さ
な波濤が、上昇気流に乗って舞うトンビ
と結構いいコントラストを描いていたよ
うに感じました。往きの下りで帰りは登
り、ここで弱音は見せられないと根を詰
めて登りきったあたりで飲食店があっ
て、元お嬢さんが妙にやさしく声をかけ
てきて、何とも表現のしにくい「団体行
動から外れたい思い」にかられたのは小
生一人だったでしょうか。

こんどは、かけがえの無い連れと来
て、《龍恋の鐘》をバックにゆつくりと
江の島の海を見ようと考えさせられた散
策でした。幹事さん、ありがとうございます。

Trip to Enoshima

Gerhart Beitel

On October 21st I joined a trip to *Enoshima* which was organized by members of the University of the air. I was invited by Sato-san who is a member of the "Welcome" group also joining this event. We met around 11:00am at Enoshima station and had a short visit to an old shrine in the town of Enoshima. After that we moved on to the perfume museum and saw an amazing variety of perfume bottles mostly from the 19th and beginning of 20th century. Around noon time we walked across the dam to Enoshima island, where we had a good lunch. In the afternoon we visited the botanical garden of Enoshima which is located right in the center of the island. Also it was October we could still see some nice flowers and other interesting plants. Within the botanical garden there is the tall old tower of the lighthouse of Enoshima. We took the elevator to the top. From there we had a beautiful view over the coastline almost until Izu peninsula. However, we could not see Mt. Fuji since it was too hazy. Later in the afternoon the group divided into people going into a restaurant and others visiting the caves of Enoshima. These caves are located at the coast line of Enoshima, just above sea level. Therefore we had to climb down all the way from the botanical garden, which is located at the highest point of the island. The caves itself are very old and little altars and statues inside. Every visitor got some candle which provided some light. The candle light together with the darkness of the cave and the ancient statues produced a strange atmosphere. After the visit of the cave the members of our group struggled to climb many steps to the center of the island again. It was already getting dark so it was decided to go back to the main land. Close to the station we visited a little cafe and had a beer and some sandwiches. After that most people went home and only about 10 people including me moved on to Kamakura. The day ended with a nice dinner close to Kamakura station.

Looking back it was a very interesting day for me. I have seen lots of new things and could talk to many interesting people. Only drawback was my poor Japanese language skills. But this was compensated by the support of some members of the Welcome group who helped me a lot with their explanations in English.

Thank you very much for the nice day and for inviting me.



動揺と躍動の間で

|| 日食とパラサイト・シングル ||
 放大同窓生による体験発表を聴いて

片野 克巳

始源より、太陽と目しかなかった。

D・Hソロ *1

彼は直立して貝殻を耳におしあてて聞き入っている。彼は無限の宇宙の前ではないまだ子供にすぎないのだが、いささかのおそれも抱いていない。彼はそうして旅をはじめたのだ。
 L・アイズリー *2
 人はみな、わかることだけを聞いている。
 L・W・ゲート *3

講演は難しい。講演者と聴者双方に泣き所がある。講演者の声が聴者の退屈を促しかねないこと(必ずとはいえないが)よくあることだ)、興味のある演題なのに眠りかけてしまい、何を話しているのか、あるいは、何故自分がここにいるのか(ここはどこ、私は誰)俄に思い出せないこと。そんなことを思いつつ、ある講演を聴いたのである。

同窓会主催の「体験発表会」がそれなのだが、演題が二つあった。

一つが、佐藤美津留さんの「晩学で私が出たもの、あれこれ」、もう一つが、田澤誠一さんの「皆既日食で綴る太陽活動1周期」である。どちらも演者ご自身の人柄が滲み出て、研究への真摯な眼差しや観測にかける熱意を感じることができ、貴重な一日となった。

発表前にプリントが配布された。そのプリントを頼りに発表を聞くことになる。これは二つの発表に共通であった。

「晩学で私が：」の中で私が一番心動かされたのは、「パラサイト・シングル」と「親世代の自立」の話であった。「パラサイト・シングル」とは、経済的

には自立していながら、家事全般・食事の支度など、すべて親にまかせきりの独身者のことである。これは「親世代の自立」の問題と深く関係している。子供の自立は親の自立が不可欠といってもよい、子供の自立を望むならば、親が自立してみせなくてはならない、ということだろう：。

そう考えながらも自省してみる。

「まったく、これは自分のことだ」
 そうなのだ。私こそが《パラサイト・シングル》だったのだ。それを反転させれば《親世代の自立》もなされなかったのである。他人事ではないのである。

家庭の恥部を晒すようで大いに心苦しむのだが、あえて書いておこう。真実そのように考え、私の心を乱したということでは、この発表は本当に得難いものとなったのだから。

動揺した心が次の「日食」の話では躍動する。正反対の心の動きをもたらした二つの発表。退屈は促されず、心は転調を重ねていく。

「日食」で最も心に残り心躍ったのは、スライドを通じてのことだが、黒い太陽から放射しているコロナの美しさやダイヤモンド・リングの神々しいまでの光の集積であった。

コロナの美しさを決めるのは、太陽の活動を左右する「黒点」の数であり、それは十一年周期で増減していることが分かっている。その数の極大で太陽活動は活発になり、コロナは力強く大きなものとなる。反対に極小で太陽活動は縮小し、コロナは小さなものとなる。プリントで説明を受けながら、美しい、素晴らしいだけではない世界がある、数理化で記述された別の美しさもあるのだ、と思いついた。

スライドではなく実際に見ることができるときに、一体何を見、聴き、そして何を考えるだろうか。そう考えるだけで、

私の心は躍ってしまう。安上がりにも程がある、といえなくもないのだが。
 次回、近辺で皆既日食がいつあるのか分らないが、そういうときでもない限り重い腰は容易くは持ち上がらないだろう。だがこうも思う。そのときにはまた違った私が、心を躍らせて天を仰いでいるのだと。

(注)

*1 L・アイズリー「星投げびと」

千葉茂樹訳 工作舎二〇〇一年

三九二頁 アイズリーの引用から

*2 同書、三〇二頁

*3 『ゲート格言集』高橋健二訳

新潮社 一九九四年一八五頁



『映画鑑賞とお話し』を楽しんだ!

佐々木 順子

二月二四日、同窓生であり、横浜映画研究会の会員でもある、西浦久晏氏による映画の会は、氏の話から始まったのだがよどみなく語るその内容の充実した濃さに、皆さん称賛されていた。

映画一〇〇年の歴史、映画に反映されるお国柄、映画の楽しみ方 etc と、この満載な内容を限りある紙面に再現できないのが残念である。是非、シリーズ化をとの要望が多々ありましたので、実現の節はお出掛け下さい。映画「初恋のき道」のピュアな恋に始まり、四〇年も続いた相愛に、感じいつている私達に、あなたにとつて、至福とは何? という仲間間の問いかけに、議論白熱、大いに盛り上がった懇親会でした。

(企画)



《映画一〇〇年の歴史》を
 講演する西浦久晏氏



《映画鑑賞の感想》

大島キヨ子

二月二四日、同窓生西浦久晏氏の案内で中国映画『初恋のきた道』を鑑賞。一昨年ベルリン国際映画祭で銀熊賞を受賞した純愛物語だ。

雪深い寒村に唯一学生として村を出た青年が父の葬儀のために帰る。担ぎ手不足を説き車の葬式を説得する村長と息子に毅然として夫の功績を語り、思い出の赤布を織り始める母。父の部屋で両親の写真を前に回想する場面。僻地に萌え出る黄と冬の白の世界、赤い服の似合う文盲の娘が若い先生に恋心を伝えようと苦心する。周りにも助けられ自由恋愛第一号になる迄の二年を描く。

映像に惹かれ心を洗われていると、画面は赤い布が掛けられた棺に寄り添う老母と息子。

余韻の残る心に潤いを与え、至福を語り合っていたら幸せ気分になりました。



フォスター・プラン活動報告

フォスター・プラン活動報告

神奈川学習センター同窓会では、《社会への貢献》の一環として『フォスター・プラン』活動に、一九九一年十二月より参加しています。

フォスター・プランは、特定の宗教、政治に関係のない国際援助機関（NGO）で子供達を取り巻く地域社会の生活環境を総合的に向上させることを目的とし、保健・衛生、居住環境、教育、人材・技術開発等多岐にわたるプロジェクトを実施しています。皆様から戴く援助金は、フォスター・チャイルドの家庭に個別に渡すのではなく、地域で実施するプロジェクトに役立てられています。皆様のご協力により、当同窓会はグループでフォスター・ペアレントになって現在5名のフォスター・チャイルドを支援しています。

- ルーシちゃん (ケニア 十二歳)
- ソムチャイ君 (タイ 十六歳)
- パロ・バラちゃん (バングラデッシュ 十六歳)
- レオニダス君 (エクアドル 八歳)
- ラビ・ナリゲ君 (インド 八歳)

一年間の活動状況及びチャイルドの成長した写真、まだ字が書けない子供の描いた絵等を一月二〇日から二月二四日まで学習センター談話室に掲示しました。

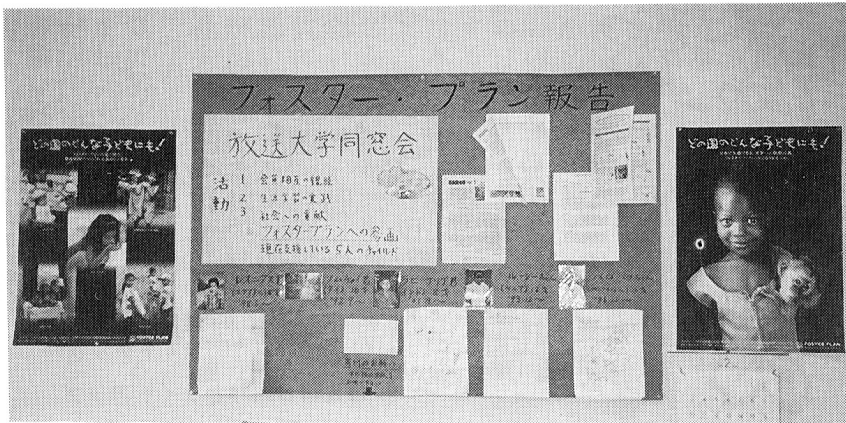
(F・P実行委員会)



フォスター・プランの歴史

60年余り前、ひとりの戦災孤児を救ったイギリス人の行動が、フォスター・プランの始まりです。

フォスター・プランに協力する当時の映画スターたち。ゲリー・クーパーとイングリッド・バーグマン



企画便り

麒麟横浜ビアレッジへのお誘い

夏のひとときを、ビール工場で涼をとりませんか！

ビールが生まれてくる工場を見学します。できたてのビールを試飲後ビュッフェコースの食事をを行います。

飲んで、食べて、語って楽しいひとときを過ごしましょう。

皆様のご参加をお待ちしております。

日時 平成十四年七月十四日(日)
目的 地 麒麟横浜ビアレッジ

集合場所 京急生麦駅から徒歩8分

費用 三五〇〇円程度

申込締切 平成十四年六月末

申込先

佐々木 順子(045-1472168)

大花 幸子(0468-6612195)



企画担当からのお願

今回の《映画鑑賞とお話し》はお蔭様で大変好評でした。

今年度も楽しい企画をしたいと思

います。

今後、ハイキング、観劇会、映画鑑賞会、講演会、体験発表会、見学会、サークル活動等々皆様からのご希望、提案をお待ちしております。

同窓会と私

神奈川学習センター同窓会
副会長 小山佐枝子

「自然の理解」を卒業したのは平成二年三月、もう十二年前のことである。当時、「自然の理解」5年間の在学時には友人がでなかつた。我が人生で最後の卒業式に臨み、終了後ロビーに出たとき、これで大学ともお別れになるかと思うと寂しい気持ちになった。数日後、一通の手紙が届き、神奈川学習センターに同窓会を作りたいので協力してほしいという文字を読んで、卒業式のときになんかのいともなかつた私が同窓会（本部）に入会した。終身会費一万円を支払って入ったが、神奈川学習センターに支部を作ると言う文字を見たとき非常に身近なものに感じられた。時間的な余裕もあつたので、少しはお役に立つかなと軽い気持ちで会合に出席した。会を創るとはどういうことか判らず、何をどうやっていいのかも判らず、当時、同席しておられた譜代の会長さん役員の皆様に指導を受け、イロハも判らず会計担当になった。ゼロからの出発である。運営費もなく会合のたびに皆さんがポケットマネーを出して下さったのがとてもありがたかった。本部から一人当たり二千円の支部への交付金では、遣り繰りが難しく、とても苦勞した。設立準備会を経た一〇月、正式に神奈川学習センター同窓会が発足した。それから十二年たった今、私は同窓会の役員として末席に名を連ねている。この間、同窓会は平坦な道を歩んだわけではなく、紆余曲折、山あり谷あり、その時々々の役員になられた皆さんの努力と協力で、何とかここまで来ることができた。会員も当時百名余りだったのが、

今や七百名以上になっている。これからの会の運営は、やはり大変であろう。しかし、私が思う同窓会の在り様というものは、年会費一〇〇〇円も頂いている以上、よりよい運営をして行かなければならない。会員の皆様とをわなくパイプ、年2回発行される波濤の役割は大きい。波濤の充実、読んで下さった会員の皆様が、学校の様子、同窓会員の動向など波濤を通じて多様な情報を得られること。また、次の波濤を心待ちにして下さるような紙面づくりに努力しなければいけないと思う。もう一つ、企画である、会員の皆様が参加してみようかなと思ってもらえるような見学会、講演会を提案してほしい。それには企画を担当された役員の方々の力量がものを言うと思う。いろいろなイベントや情報を探り、絵画展、音楽会、講演会、講習会など巷には魅力的な情報が一杯あるので色々取り上げてほしい。長い間、同窓会の中で役員の皆様と一緒によりよい会にしようとなつた結果、私は在学中に得られなかつた、とても大きな友人を多数得ることができました。これは何もにも変えられない財産を頂いたように思う。

同窓会に入れば色々な情報を得られるし、多くの友人も得られると思えば、当初私が感じた寂しさはなくなるし、先に明るい道が開けると思う。

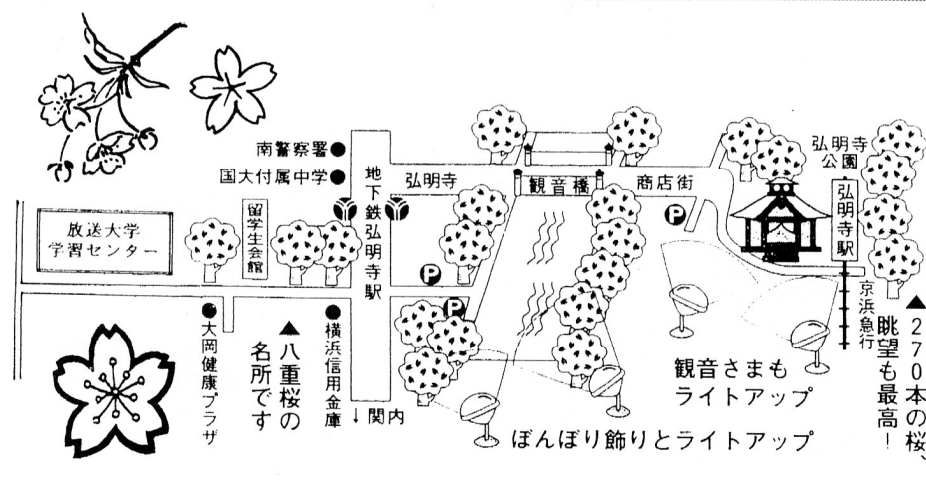
放送大学が卒業生を出してくださる以上、同窓会は卒業生皆様の会であり、多くの友人を作る場、情報を得られる場として利用して頂きたいと思う。出来るならば役員になって活動して頂けたらと心から願う次第です。

同窓会の発展を祈念して

学習センター

周辺情報

神奈川学習センターに時には足を運んでみませんか！
四月からは大学院も開設されてキツト新しい情報も沢山あると思います。新装成った図書室、視聴覚室、談話室等覗いて見ては如何ですか？
四月になれば大岡川の桜も満開で見頃と思います。弘明寺観音様、観音橋も、商店街も綺麗になりましたよ！



【役員募集】

【会計担当からのお願い】
会費納入につきましてご協力有り難うございます。最近の事例として振込票に住所、氏名が未記入のもの、或いは判読困難のものがありません。大事な会費ですから、その都度郵便局に問合せたりしています。ご面倒でも楷書で、難しいお名前には振り仮名をお願い致します。

今年度は役員改選期等で四名の方が退任します。十四年度より積極的に同窓会運営にご協力して頂ける方を募集いたします。

【編集後記】

総務担当として波濤編集に携わって六年、何時も発行ギリギリまでワープロとニラミアイ？ この次は余裕をもって編集しようと思いつながら結果は何時も同じ。一向に改善されないまま時が過ぎてしまった。

改善されないと云えば厳しい生活・社会環境も同じだろう。一向に改善されない。不景気で会社は倒産、リストラされ、仕事を探しても仕事はなし、たまるのはストレスのみ。

せめて同窓会員の間だけでも楽しさを、明るさを分かち合いたい。

波濤が情報発信基地になるように心掛けて来ましたが、今回の編集で卒業させて頂くことになりました。長い間の協力有り難うございました。

次回の新しい紙面の《波濤》が発行される頃には世の中、少しでも明るい兆しが見え始めていることを祈りつつキーボードの上の手を静かに休めることにします。

皆様のご多幸をお祈り申し上げます。
(伊東)